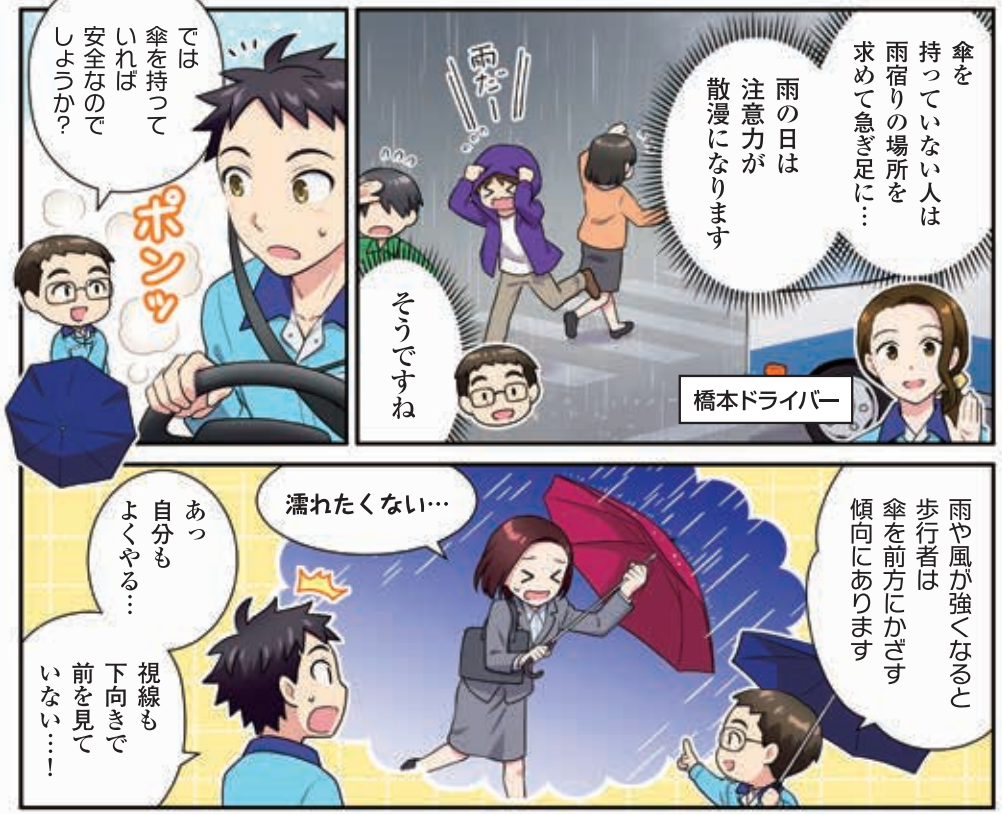

次で「雨の日の対処方法」を解説！

進藤 亮太（21）
車好きが高じてトラックドライバーになった、少しやんちゃなイマドキ男子。ただ今、初めての一人暮らしに奮闘中。ちゃっかり者だけれど、どこか憎めない先輩から可愛がられるキャラクター。

・・・今日も快晴！・・・

トラックドライバー日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第3話 雨でも、安全に届けるのがプロ

雨でも、安全に届けるのがプロ

視界が極端に悪化する強雨時は無理せず安全な場所に停まる

状況によっては安全な場所に停車した上で報告。
天候が回復するまで待機しましょう。

「大丈夫だろう…」と思い込みをしない！しっかり確認をして構内事故を防止

雨の日は状況が「いつもと違う」ことが多いので、
「思い込み」をせず確認することが大切です。

マンガ制作：ad-manga.com

「大丈夫だろう…」と思い込まず商品の積み降ろし時にもしっかり確認

雨の日は、運転だけでなく商品の積み降ろし時にも注意が必要です。雨が降っていれば、当然「商品を濡らしたくない」という心理が働き、いつもよりプラットホームに車両を近づけて停めようとします。しかし、サイドミラーやバックモニターが水滴で見づらい上、眼鏡を掛けているとレンズに水滴が付きます。そのような状況だと、窓から顔を出して確認するのを面倒に感じるものです。結果、接近しすぎによるバック事故につながるのです。事故を防ぐには、躊躇することなくトラックの両窓を全開にして確認をしてください。その際、雨で濡れてはいけないものを窓の近くに置かないよう、日頃から運転室内の整理整頓をしておきましょう。

また雨の日は、お客さまは商品保護の観点から、雨が吹き込まないよう構内のシャッターを少し閉めている傾向があります。トラックで後退する場合、「いつも通りシャッターは全開」という思い込みが、車両荷台部分を接触させてしまう事故につながります。

雨の日はいつもと状況が異なります。「大丈夫だろう…」という思い込みをせずに、しっかりと確認をすることが構内事故防止につながります。

高柳 勝二（たかやなぎ かつじ）
株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い“提案型”研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。

雨の日に警戒すべきはスリップ事故だけではない！

雨は歩行者の注意力を散漫にさせ、ドライバーが予測しにくい行動を引き起こす！

「雨に濡れたくない心理」が注意力を散漫に

雨の日の運転は、視界不良や路面が滑りやすくなるなど、危険が増えることはご存知だと思います。それ以外にも注意が必要なのが、歩行者の不安全行動です。

降雨時における歩行者は「雨に濡れたくない心理」から、無理な横断や急な駆け出しをする傾向があります。ドライバーはその心理状況を念頭に置いて、例えば「晴れていればきちんと信号を渡るけれど、雨だと信号のない場所を横断してくるかもしれない」といった予測をしましょう。他にも、朝夕の通勤時間帯に想定外の雨が降った場合、特に駅付近では「傘を持っていない人が、周囲に注意を払わず駅に駆け込む」という不安全行動が考えられます。ゲリラ豪雨になればなおさらです。

また、傘を持っていたとしても安全とは言えません。雨が強くなれば、「濡れたくない心理」から傘を前方にかざすようになるでしょう。しかし、透明なビニール傘ならまだしも、柄物や色の付いた傘を差している場合には視界が著しく低下します。また足元の水たまりを気にして、視線が下向きになっているかもしれません。ドライバーは、「歩行者は前が見えてなく、急に駆け出すかもしれない」と思い、「こちらが先に停まる」ことを意識しましょう。

雨の日は、いつも以上に「こちらが先に停まる」ことに努める

歩行者や自転車に乗っている人は、「早く到着したい！」という心理から、
思わぬ行動をとる可能性があります。

レインコート着用時には「視界が狭く、周りの音が聞こえにくく」なります